

# “ワンヘルス”による動物疾病対策・食料安全保障強化事業

【令和4年度予算概算決定額 61（61）百万円】

## ＜対策のポイント＞

“ワンヘルス”の考え方の下、野生動物由来人獣共通感染症対策、抗菌剤の適正使用等の薬剤耐性（AMR）対策、獣医組織の能力強化等を行い動物疾病対策、AMR対策及び食料安全保障を強化します。

## ＜政策目標＞

- 地域における鳥インフルエンザや狂犬病等の人獣共通感染症対策を推進するとともに、野生動物由来感染症に対処するための体制を強化する
- 薬剤耐性に関する国別の行動計画に基づく対策を地域の80%以上の国々で軌道に乗せるとともに、60%以上の国々で組織的な耐性菌サーベイランスが実施されるようにする

## ＜事業の内容＞

## ＜事業イメージ＞

ワンヘルスアプローチによる人獣共通感染症対策等の推進 61（61）百万円

### 1. アジア太平洋地域における人獣共通感染症対策及び薬剤耐性対策の推進

- ① 新型コロナウイルス感染症など野生動物の関与が疑われる感染症対策を推進するため、情報収集や関係部局等の連携構築・強化のためのワークショップを開催し、人獣共通感染症の予防・防疫における野生動物戦略の策定等を支援します。
- ② 地域における鳥インフルエンザ対策を推進するため各国の疾病情報の共有や予防・防疫対策の検討を行うためのワークショップの開催等を行います。
- ③ 地域における狂犬病対策を推進するための啓発活動や対策会議の開催等を行います。
- ④ 各国の薬剤耐性対策の実態把握、情報共有、各国の国別行動計画に基づく取組の効果的な実施の支援のためのワークショップの開催等を行います。

### 2. アジア太平洋地域における診断技術や獣医組織能力の強化

- ① 発展途上国の獣医組織能力の評価、改善指導や行政組織のキャパシティビルディングのためのワークショップの開催等を行います。
- ② 各国の診断技術の向上のための技能試験や技術研修を行います。

### 3. 専門家派遣

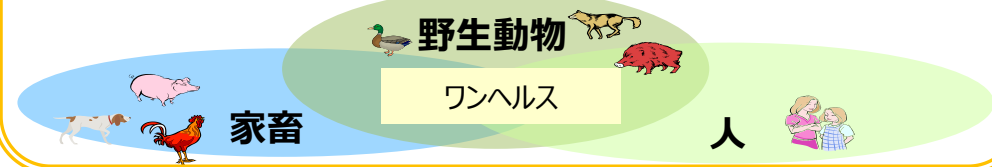
事業を推進するため、必要な専門家の派遣を行います。

## ＜事業の流れ＞



## ～ワンヘルス～

動物と人及び環境の分野が協力して、人・動物の健康を促進  
（OIE、WHO及びFAOが協力）



## 人獣共通感染症対策

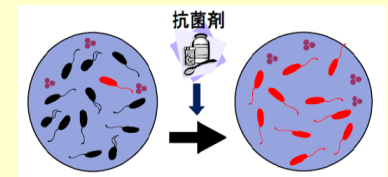
- ・新型コロナウイルス感染症等の野生動物の関与が疑われる疾病への対処
- ・鳥インフルエンザのモニタリングや効果的な防疫
- ・2030年までに犬由来狂犬病ゼロとする世界的目標のもと対策を推進



（写真出典：OIE）

## AMR対策

- ・薬剤耐性に関する行動計画の策定
- ↓
- ・行動計画の実施  
ーサーベイランスの実施  
ー啓発活動



（イラスト出典：OIE）

【お問い合わせ先】（1）輸出・国際局国際地域課  
（2）消費・安全局動物衛生課

（03-3502-5913）  
（03-3502-8295）

# 【参考 1】 新型コロナウイルス感染症等の人獣共通感染症対策

## 新型コロナウイルス感染症に対する国際獣疫事務局（OIE）の役割



第72回WHO総会及びG20農業・水大臣会合において、人獣共通感染症の管理の重要性や感染源の特定に向けた関係機関の連携について確認された。

第72回WHO総会 決議  
(2020年5月20日～28日) (抜粋)

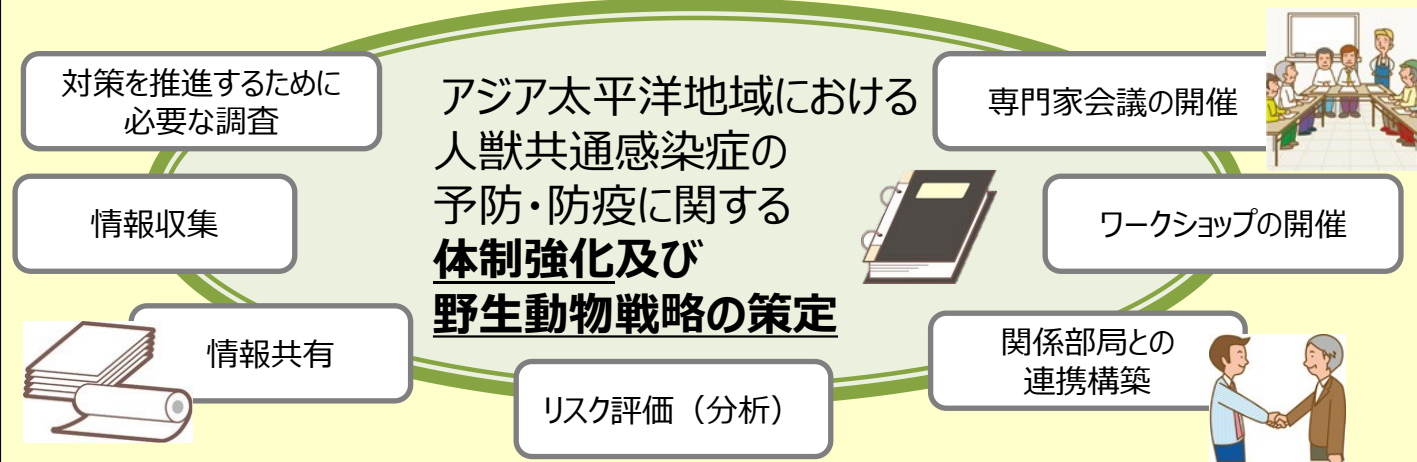
ワンヘルスアプローチに基づき、ウイルスの動物における感染源や、中間宿主の役割を含む人への感染経路を特定するため、科学的かつ共同の現地調査のような努力を含め、**国際獣疫事務局（OIE）**、国連食糧農業機関（FAO）及び各国と、引き続き**緊密に連携する**。これにより、今後起こり得る同様の事象のリスクを低減し、動物及び人におけるSARS-COV2の感染や、動物における新たな宿主の発生を予防し、また、**人獣共通感染症の発生と伝播の更なるリスクを低減するためのガイダンスの提供**と、**的を絞った介入及び研究課題の設定が実現可能となる**。

G20農業・水大臣会合（サウジアラビア）声明  
(2020年9月12日) (参考仮訳) (抜粋)

我々は、ワンヘルスアプローチに沿って、**人獣共通感染症の監視、早期警戒、備え、予防、発見、対応及び制御のためのメカニズムを強化すること、並びに人獣共通感染症の管理のためのより厳格な安全及び衛生管理の国際的なガイドラインを科学的根拠に基づき策定すること**を求める。さらに、野生生物取引に関する適用可能な国際ルールを損なうことなく、三機関（OIE/FAO/WHO）に対し、**人獣共通感染症の重大なリスクとなる野生動物の種と条件に関するリストを作成し、これらのリスクを低減させるガイドラインを策定すること**を求める。

### 拠出金

## 国際獣疫事務局（OIE）の取組を支援



## 事業効果

- ・アジア太平洋地域における野生動物由来の人獣共通感染症に対処するための体制の強化
- ・我が国への侵入リスクの低減

# 【参考 2】 薬剤耐性（AMR）対策

## 世界保健機関（WHO）

「**薬剤耐性に関する国際行動計画**」（2015年5月採択）  
人医療、動物医療、食品安全等の各分野が協力し、  
OIE等の国際機関と連携して世界的に対処すべき

## 国内行動計画策定

（2016年4月 閣僚会議決定）

2020年までの5年間の行動計画（1年延長）

- ・国際的な政策への日本のリーダーシップの発揮
- ・薬剤耐性対策に係る国際協力の展開  
→ OIEの国際的取組の強化を支援

## 国連総会ハイレベル会合\*

**AMRハイレベル会合政治宣言**（2016年9月）

- ・各国及び国際社会が協働し、  
規制能力の強化、専門家の教育、  
研修等を支援する必要性を確認。
- ・時限的なAMRに関する組織間連携委員会を設置



薬剤耐性対策を加速するため政治的枠組の設立を提案

- ・ワンヘルス薬剤耐性グローバル・リーダーズ・グループ発足  
（2020年11月）（首脳・大臣経験者等が委員）

※国連のハイレベル会合は保健分野ではエイズ、エボラ出血熱、  
その他の分野では核軍縮等、世界的に極めて重要度の高い問題について開催。

拠出金

## 国際獣疫事務局（OIE）の取組を支援

アジア太平洋地域各国の行動計画の策定・実施を支援

- 検査技術の強化のための上級研修の開催
- 行動計画の進捗管理や各国の情報共有等を目的とした  
国際会議等の開催
- 薬剤感受性試験の技能試験（Proficiency test）を実施

## 事業効果

- ・我が国への耐性  
菌の侵入リスクの  
低減
- ・国際的な薬剤耐性  
対策への貢献